

トライアスロン 2013
シーズンレポート

平成 25 年 12 月 8 日

岩渕 努

期間 平成 25 年 4 月～11 月

主な成績：

全日本トライアスロン宮古島大会	14 位
潮来トライアスロン全国大会	3 位
秋田トライアスロン大会芭蕉レース	1 位 (招待の部)
阿武隈川トライアスロン大会	1 位
2013 あづまデュアスロン大会 in 福島	1 位
東北トライアスロンサーキット 2013	年間チャンピオン

MATERIAL

Bike	SCOTT PLASMA Premium
Run Shoes	ZOOT Ultra RACE 4.0 (First Run)、KIAWE(Second Run)
Tri Suit	ZOOT Performance Tri Team Tank, Team 8" Short
Accessory	ZOOT Ultra IceFil® Arm Coolers, Ultra 2.0 CRx Calf Sleeve Performance Ventilator Visor
Chemical	HOLMENKOL LubeExtreme,HightecProof etc
Bar Tape	LIZARDSKINS DSP Bartape 2.5mm

私にとって、今年で 7 シーズン目を迎えたトライアスロン競技。今年目標は昨年の今頃に、

- ① 宮古島大会 20 位以内
- ② 東北トライアスロンサーキット 2 連覇

としていた。

①は、4 月という春先の大会であるため、冬場のトレーニングが成績を左右させる。今年で 6 回目の出場であり、いつ





もとは違うトレーニングメニューを組んで挑んだ。それは、バイク力の向上であった。それまでは、雪国東北ということで、外で自転車に乗ることはできないため、半ば諦めランの強化ばかり気にしていたが、室内トレーニングを多く取り入れ、自分自身を見直しながら練習を積んだ。

そして迎えた宮古島大会。悪天候によりスイム中止となったが、トレーニングの成果を十分に発揮できた。結果、過去最高位の 14 位という成績であった。

②の東北トライアスロンサーキットとは、東北では全部で 12 戦あるトライアスロン（デュアスロン・アクアスロン含む）大会でポイントを獲得し年間の順位を決めるものである。

今年、東北サーキットは 8 戦出場し、バイクパフォーマンスの向上から、ランスタート時に大きなアドバンテージを作る展開で、優勝 3 回を含む成績で 2 連覇を達成することができた。

今シーズンも、全ての大会直前にバイクに対してホルメンケミカルによるメンテナンスを行って挑んだ。ライニガーによる汚れの除去、ルーベンスピード・ルーベエクストリームによるナノコーティング、ダートプロテクターによる仕上げを実施し、バイクパフォーマンスアップに繋がった。中でも、前記、



阿武隈大会、あづま大会は雨が降る中での大会であったが、ホルメンケミカルの効果はレース後まで発揮され、バイクラップ 1 位を獲得した。

今年からさらにレース後、「テキスタイルウォッシュ」によりユニフォームのメンテナンスも行った。テキスタイルウォッシュで洗うことにより、ユニフォームの繊維が守られながら、速乾性を向上させてくれるため、汗をかいて気温が下がっても身体が冷やされたりすることが少なくなった。

来年は、今年の自分をさらに超えたパフォーマンス・成績を残したい。

以上